

「仕事ができる社員、できない社員」という本からです

運、不運にとられない人 「成功には運が必要だが、運だけの成功はない」

「運」といっても、人によって何を「運」と呼ぶかには違いがあります。

たとえば、Aさんという社員が徹底して努力を積み重ねて仕事に取り組んでいたとします。一方、Bさんという社員は、それなりの努力をしてきましたが、まだまだ気づかない点が多くあります。

努力する人は当然、努力が足りない人よりも実力が高くなります。それでも 100 パーセント成功するには届かない残り少しの部分埋めるものを指して、「運」というのです。

しかし、努力の足りないBさんのような人の場合、徹底的に努力する人との実力差の部分も含めて、それを「運」と呼びます。つまり、人によって頼る運の大きさが変わってくるわけです。

実力のある人にとって運の関わる部分は非常に小さいものになりますが、小さくとも必ずあり、とても大事なものです。そして、小さいけれど重要なその運を引き出すために、努力することは欠かせません。

「人事を尽くして天命を待つ」といいますが、このとき「待つ」のが、“運に頼る部分”に当てはまります。ただし、それは努力できる人の話です。努力している人がいうところの「運」と、努力の足りない人がいう「運」とは、その大きさが違います。運に任せる部分に大きな差があるのです。

Bさんが「運」という部分でも、Aさんにとっては努力でしかないこともあるはずですが。そして努力の差の上には、天命の部分があります。

人事を尽くして天命を待つのが仕事への正しいアプローチです。しかし、運、不運で物事をとらえる人というのは、どちらかというとBさんのパターン—つまり、努力の足りない人、人事を尽くし切れない人の方が多いでしょう。なぜなら、Bさんの場合、成功するためにはかなりの部分を運に頼らざるを得ないからです。Aさんのような人は、基本的に運、不運で物事をとらえません。うまくいかないときは、ほんの少し努力が足らなかったために天命に任せた部分だけを反省すればいいからです。天命に任せただけで、まだ自分でもできることがあったのではないかと振り返れば、自分に足りないことが何か、これから努力すべきことは何かが具体的に見えてきます。たとえ結果が悪くても、結果が目に見える形で出ること、何を運に頼ろうとしていたかがわかるのです。わかればさらに努力しますから、次の機会には克服して、さらにいい結果を導き出すことにつながっていくのです。

運は確かに存在しますが、運、不運で物事をとらえないほうが、最終的に自分の実力を伸ばしていくことにつながります。結果を左右するのは運より努力であることを決して忘れないことです。

運に頼る部分とは何ですか？

()